

視察における新たな気付きを、一部紹介いたします

愛知県高浜市(人口約49,000人)／民間を活用したリース方式による市役所本庁舎の整備について

視察目的

高浜市の市役所本庁舎については、民間事業者により建設されたリース物件となっています。このことは、全国の自治体においてめずらしい形態であるため、この度の視察項目としました。

高浜市では、将来的なコスト低減と、リースであればリース期間中にリース代を一定額支払うことによる支出額の平準化を図れるメリットから、リースによる整備をされたとのことです。また、IT化の進展により、今後の行政サービスの提供方法も変化することが想定され、現在の本庁舎の執務スペースが必要とは限らないことから、自前で庁舎を建設するより、リース物件による整備の方がメリットが高いとの結論に至ったとのことです。リース期間は20年間で、平成30年7月よりリースによる新庁舎での供用を開始されています。リース期間の20年が終了した際は、協定上、原則更地にすることとなっているようですが、具体的な協議について、現在は未定とのことです。



リース物件である高浜市役所本庁舎

今回の視察により、公共施設のリースについてのメリットや詳細等について確認することが出来ました。自治体の建物におけるリース契約は珍しいかも知れませんが、企業の本社建物等についてはリース契約を採用している事例も多く存在します。本市においても公共施設の再編等を検討する材料として、リースの可能性についても排除せず、さまざまな目線で比較検討を行い、効果的な再編と財政支出軽減に向けチェック出来るよう取組んで参ります。

愛知県豊橋市(人口約368,000人)／「まちなか図書館」(市が所有する、民間商業施設の2Fと3Fに開設)

視察目的

加古川図書館を駅前商業施設内に移設し、新たな人流、賑わいの創出を進めています。将来的な加古川駅周辺の再整備に併せ、どのような施設にしていくべきか、またそのために何が必要か、先進的な取組みを参考とするため、この度の視察項目としました。



当初の目標の「図書館に行こう」より「特に用がないから図書館へ行こう」と思える図書館となっています。

- 構想から開設・運営までの工夫
 専門家、ヘビーユーザーの声だけを反映するのではなく、広くアンケートを行ったほか、これまで図書館を利用しなかった人たちと交え、多くの人に足を運んでもらえる図書館に向け調整されていました。
- 「この決められた空間に何を造るか」ではなく「ここに何を造り、どのように使っていくのか」と最初から信念を持ち取組まれていました。

これまでの図書館の定義を打ち破り気兼ねなく利用でき、居心地のよい空間になっています。

★キッズスペースはどこからでも見通せ、親子ともども安心

★「静かに利用する」といった概念にとらわれない

- 気兼ねなくお子さんと過ごせる
- 学生たちがボックス席で教え合いながら学習できる



みんなでラジオ体操!



2Fと3Fをつなぐ中央ステップ(映画上映や講演会も開催)



ワークショップでお菓子作り



本は書店のようにテーマごとに配架(初めてでもわかりやすい)



図書館中央部にカフェを設置、館内飲食可能

- 今後の加古川市政に関する、ご意見、ご要望等あればお聞かせください。
- 代表質問、一般質問の詳しい内容は、加古川市ホームページの、市議会のページでご覧いただけます。

メールアドレス:kakogawacivicclub@yahoo.co.jpまで

かこがわ市民クラブ

加古川市議会



議会報 2024年初夏号

発行者/かこがわ市民クラブ
 加古川市加古川町北在家2000
 議会事務局 (079)427-9303

皆さまからのご要望・ご意見をかたちに

「かこがわ市民クラブ」が、皆さまからの声や想いをかたちにするため、提言してきた事業を含め、本年度における取組みをご紹介します。

提言した事業の一部をご紹介します

■ネーミングライツパートナー 及び愛称の決定【歳入:総額1,590万円(税込)】(市に入るお金)

入るを図る取組みの積極的推進において 私たちが要望した新たな財源確保策の取組みとしてネーミングライツが、令和6年度から開始される。

施設名	愛称	ネーミングライツパートナー	対価(年額・税込)	期間
加古川市立日岡山体育館	117 いいな スポーツアリーナ	株式会社117	1,210,000円	5年
加古川市民会館	SHOWAグループ市民会館	SHOWA GROUP株式会社	1,705,000円	5年
篠原市民トイレ	ワクワクといれ	ワクワクといれ実行委員会	165,000円	3年
粟津歩道橋	117 大和会館 歩道橋	株式会社117	176,000円	5年



日岡山体育館:117いいなスポーツアリーナ

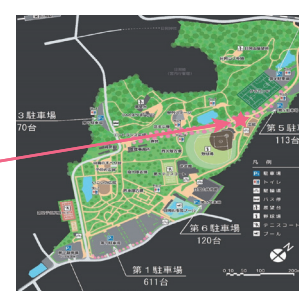
■日岡山公園のトイレ改修【1,650万円】 ← 会派重点ピックアップ

日岡山公園の老朽化しているトイレが引き続き、今年度も改修される。

令和5年度 サッカー場駐車場 トイレ改修工事 完了



令和6年度トイレ改修工事予定



■小学校にサポートルームが増設【2,700万円】

空き教室に不登校児童生徒の居場所が増設される。
 ●令和6年度/浜の宮・別府・陵北・氷丘南・平岡南・野口南 ※尾上・鳩里・平岡東は現在設置済み

■わかば教室(サテライト教室)に心理相談員の増員【1,048万円】

特別支援学級における不登校傾向の児童生徒に対応。心理相談員を増員し相談体制の充実が図られる。

■小学校への冷水機の設置【4,150万円】

市内の小中学校のうち、令和6年度は13校、令和6年度、7年度とも13校ずつを2カ年に渡って整備される予定。(市内の中学校については令和5年度に設置完了をしている)

- 令和6年度/加古川・氷丘・神野・野口・平岡・尾上・別府・八幡・東神吉・西神吉・川西・陵北・平岡南
- 令和7年度/浜の宮・鳩里・平岡東・野口北・志方・志方東・志方西・氷丘南・平岡北・野口南・東神吉南・若宮・別府西



■持続可能な町内会等の運営に向けた支援策や委託業務の見直しを行う【約3,800万円】

- 公園維持管理業務委託料について、除草作業等は今まで公園の規模にかかわらず一律であったものが実際に除草作業が行われる面積割に拡充される。また、除草作業等の条件緩和など町内会等の負担軽減が図られる。
- 町内会等の運営において、法律や会計に関する専門的な相談や外部有識者から助言を受ける体制が作られる。

代表質問



渡辺 征爾



3月質問動画

避難所となる小中学校体育館への空調設備設置について

Q 現在、本市の小中学校の体育館には空調設備が設置されていない現状にある。今年、1月1日に発生した能登半島地震においても、学校の体育館は避難所として運用されている。この時期は冬の寒さにより、何枚重ね着しても寒さで目が覚めてしまうといった過酷な環境にあるようである。今回の能登半島地震の発生などを踏まえ、地域の避難所としての役割も担う小中学校体育館への空調設備設置に対し、本市の考えはどのようなものか。



A 災害時の避難所として、また学校教育の場として体育館への空調設備導入の必要性は認識している。しかしながら、既存の体育館の多くは断熱性が低く、冷暖房効率を考慮する必要があること、導入にあたっては多額の費用を要することなどが考えられる。そこで、体育館への空調設備導入については、他の事業との優先順位を十分に考慮したうえで、導入について判断していく必要があるものと認識している。こうしたことから、今しばらくは、スポットクーラー等の既存の機器を活用することで対応するとともに、校舎内において既に空調設備が整備されている多目的室などで避難者を受入れるなど、柔軟に対応していくこととする。

一般質問



山本 一郎



3月質問動画

中学校部活動におけるチームスポーツについて

中学生が部活動以外でも、気兼ねなくスポーツできる場所の確保として

- ① 令和6年度以降の上荘小学校の活用
- ② 公共スポーツ施設における使用料の減免
- ③ 両荘みらい学園のスクールバスの活用

について質問しました。部活動を通じて、心技体が成長し、より充実した3年間を過ごして欲しいと思っています。



回遊性の高いウォーカブルなまちづくりについて



多くの場面で出てくる「回遊性」について加古川市の定義と、回遊性を高める目的を確認した上で、現状の取組みについて質問しました。加古川河川敷と加古川駅との間の回遊性については、あらためて担当部署を確認し、努力・工夫を重ねて頂くよう要望しました。といいますのも、加古川駅周辺と加古川河川敷、2つの拠点で賑わいをあげながら、合わせて回遊性を上げる施策は絶対必要だと考えています。



稲次 誠



3月質問動画

聞こえ方に関係なく識別できる赤色灯の導入について

Q 聴覚に障害がある方は通行時、緊急車両が接近した場合、「緊急時(サイレンあり)」と「警戒時(サイレンなし)」の識別が難しく、安全に適切な対応が取れない事がある。赤色灯の発光パターンにより、違いが視認できる赤色灯の導入が必要では?

A この度、改めて課題を認識した。今後、県下でも連携を図り、導入に向け検討を進めたい。



災害廃棄物処理計画について

Q 当計画(素案)では、平時における災害廃棄物の仮置場の候補地の選定に関する記載がない。本市の仮置場候補地の選定状況と市民への周知の状況は?

A 候補地の選定は、発災後の初動対応に向け必要であり、令和6年度に調査を行い選定する。市民への周知は、地域の反対等、誤解が生じないように丁寧に行う必要がある、今後検討する。

ドローン活用について

Q シティプロモーションにおけるドローンの活用の状況と可能性について

A 自然景観や観光スポットなどを撮影困難な視点から記録することは、インパクトのある映像発信につながり、本市のプロモーション力を更に強化できる。このことから、魅力的に伝わるのかを検討した上で来年度、外部委託にて取り入れていきたい。

Q 建設におけるドローンの活用の状況と可能性について

A 建設業界ではICTを活用したドローンの活用が広がりを見せつつあることは認識している。ドローンの活用としては、工期短縮を期待できるメリットがある反面、現段階では細かな点検までが難しいことや、飛行区域の制限があることなどのデメリットがある。こうした現状から、現段階では市としてドローンの活用は出来ていないが、今後は、学校施設や公共施設、公園内の樹木点検等での可能性について、先進事例等を参考に検討していく。

- その他の質問項目
- 災害時に備えたドローンの保有及び協定締結について
 - 農業におけるドローンの活用状況と可能性について

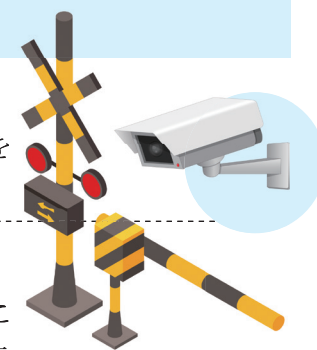
踏切を安全に通行するための対策について

Q 高度化カメラを踏切に設置することについて

A 歩行者が取り残されたことを検知する高度化カメラを含めたICTを活用することは有効な手段と考えている。

Q 高度化カメラ設置への課題について

A 踏切の外側から踏切内を撮影する場合、歩行者との距離があることから、検知精度が低くなる懸念される。仮に誤検知が発生した場合には、列車の運行停止という事態が起こり得ることや、市のシステムと鉄道事業者側のシステムを連携させる場合は大規模なシステム改修が必要となる。しかしながら、踏切内での事故防止の取組みは重要なことと認識しておりますので、事業の可能性については、鉄道事業者に対し確認したいと考えている。



- その他の質問項目
- ▶ 踏切内への点字タイルや誘導標示の設置について、今後、国からの基準が示された段階で、優先順位等の計画について、検討を進めていくとの回答がありました。